

B 県内における高地性集落・環濠集落

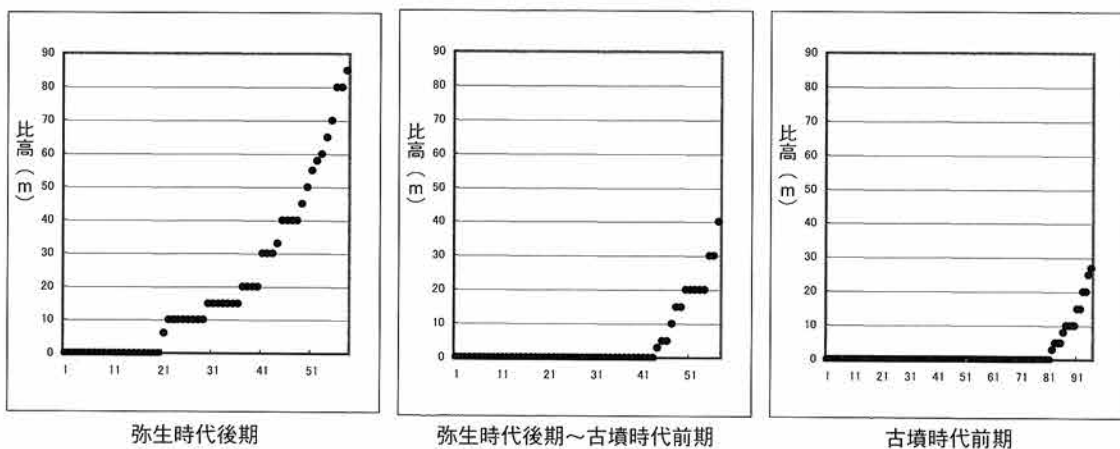
(1) 高地性集落について

前述のとおり、現状において山元遺跡は日本海側で最北の高地性環濠集落である。新潟県は高地性環濠集落の日本海側最北の地域で、これまで確実な例として7遺跡がある(第27図・第25・26表)。以下では県内例を概観し、本遺跡の評価の助けとしたい。なお、ここでの時期区分は滝沢2005b(第24表)とする。

一般的に高地性集落は「防御」を意図した弥生時代の時代性を示す集落形態[佐原1999など]と周知されてきたが、近年では見直し論も多い。「高地に立地した集落＝全てが防御集落」という解釈ではなく、遺構・遺物の検討から、生業に適した「高地に集落を構えた遺跡」もあるとの指摘があり[柴田2004ほか]、防御性の認定には多角的な視点が求められている。今回の調査で得られた情報のみで山元遺跡の「防御性の度合い」を検討することは難しいが、斜面に築かれた環濠から高地に立地した非環濠集落に比して、防御の認識は強かったことと予想する。防御性の認定については、なお検討が難しいが、ここでは県内の弥生時代遺跡の集落立地を基に、集落属性の大枠を捉えることを重視したい。

何をもって「高地」とするかには地域性が重視されるべきである。新潟県を中心とした周辺ではどのような枠組みで考えられてきたのか。周辺との比高25m以上[菅沼1993]、1993年の日本考古学協会新潟大会では、比高40mがおおむねの目安とされてきた[日本考古学協会新潟大会実行委員会1993]。試みに2005年新潟県考古学会主催のシンポジウム資料集で収集した弥生時代後期～古墳時代前期の遺跡[新潟県考古学会2005]について、現在の地形から判断した比高を折れ線グラフに示したのが第26図である。弥生時代後期～古墳時代前期まで継続する遺跡や古墳時代前期に入り成立する遺跡は、周辺との比高がほとんどない遺跡が圧倒的に多い。これに対して弥生時代後期の遺跡は丘陵上に位置するものの比率が高い傾向にある。古墳時代前期に成立する遺跡は比高30m以上のものは確認できないこと、弥生時代後期の遺跡においても30m付近で緩やかな分布の断絶が確認できることから、新潟県内では周辺との比高30m以上の集落を広義の高地性集落と考えたい。

この基準でみた場合、新潟県内には21遺跡が該当する。地域別では信濃川右岸が9例と最も多く、信濃川左岸が6例、頸城が4例、阿賀北が2例である。このうち発掘調査等で環濠が確実に検出されたのは7遺跡である。一方で、21遺跡のうち発掘調査で環濠がないとされたものは、糸魚川市後生山遺跡[大森1986]、



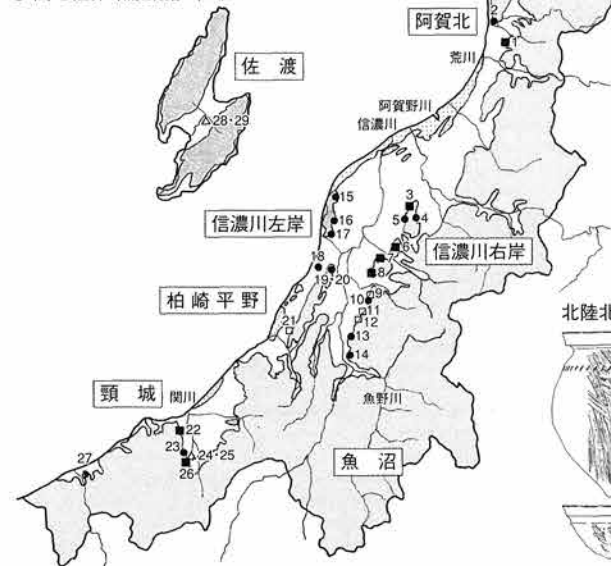
第26図 時期別の集落立地(周辺との比高)

■ 高地性環濠集落 (I A)

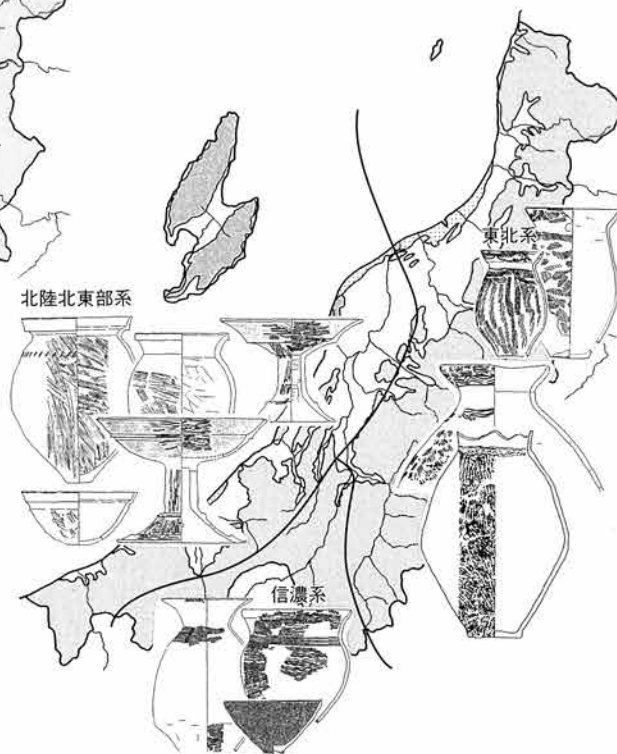
□ 独立丘陵上の環濠集落 (I B)

△ 低地の環濠集落 (I C)

● 高地性非環濠集落 (II)



第27図 県内の防衛的集落



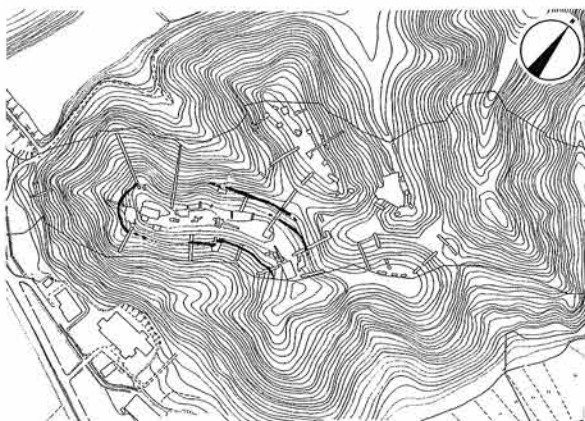
第28図 県内における弥生時代後期後半の主体的土器

第25表 県内の防衛的集落 (高地性集落・環濠集落)

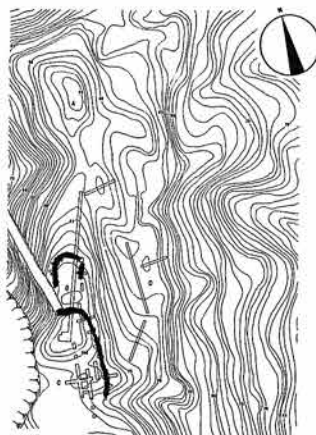
No	遺跡名	所在地	地域区分	時期	類型	周辺との 比高	調査	墓	主体の土器群
1	山元	村上市(旧神林村)大字下助測	阿賀北	中期後葉～後期後葉	I A	37m	確認	環濠外(土坑墓)	東北系
2	滝ノ前	村上市大字岩ヶ崎	阿賀北	後期後葉～古墳前期	II ?	約40m	本掘	環濠外(方形周溝墓)	東北系
3	古津八幡山	新潟市(旧新津市)古津	信濃川右岸	後期前葉～末葉	I A	約50m	確認	環濠外(方形周溝墓)	北陸系・東北系
4	大倉山	五泉市大字橋下	信濃川右岸	後期	II ?	約60m	踏査		北陸系
5	中店	南蒲原郡田上町大字田上	信濃川右岸	後期	II ?	約55m	本掘	集落内?	東北系
6	二ツ山山頂	三条市大字上保内	信濃川右岸	後期	I A ?	約80m	踏査		北陸系
7	経塚山	三条市大字如法寺	信濃川右岸	後期後葉	I A	約60m	本掘		北陸系
8	大平城	見附市島切窪町	信濃川右岸	後期後葉	I A	約80m	本掘	環濠内(方形台状墓)	北陸系
9	高稲場	見附市田井町	信濃川右岸	後期後葉	I B	15～20m	確認		北陸系
10	岩沢	見附市名木野町	信濃川右岸	後期後葉	II ?	約40m	確認		北陸系
11	横山	長岡市桂町	信濃川右岸	後期後葉～古墳前期	I B	約10m	本掘	環濠外(方形周溝墓)	北陸系
12	原山	長岡市加津町	信濃川右岸	後期	I B ?	約20m	踏査		北陸系
13	堅正寺	長岡市御山町	信濃川右岸	後期	II ?	約45m	踏査		東北系
14	阿郎山	長岡市滝谷町	信濃川右岸	後期	II ?	約65m	踏査		東北系
15	大沢	新潟市(旧巻町)大字稲島諏訪	信濃川左岸	後期前葉～古墳前期	II	約30m	本掘		北陸系
16	山谷古墳下層	新潟市(旧巻町)大字稲井	信濃川左岸	後期前葉～後葉	II	約30m	本掘		北陸系
17	稲場塚古墳下層	新潟市(旧弥彦村)	信濃川左岸	後期後葉	II ?	約40m	踏査		北陸系
18	大平	長岡市(旧和島村)大字北野	信濃川左岸	後期	II ?	約40m	踏査		北陸系
19	赤坂	長岡市(旧和島村)大字上桐	信濃川左岸	後期	II ?	約80m	踏査		北陸系
20	姥ヶ入南	長岡市(旧和島村)大字島崎	信濃川左岸	後期	II	30～40m	本掘	円?方形周溝墓	北陸系
21	西谷	刈羽郡刈羽村大字大塚	柏崎平野	後期後葉～古墳前期	I B	8m	本掘		北陸系
22	裏山	上越市大字岩木	頸城	後期後葉	I A	約70m	本掘		北陸系
23	下馬場	上越市大字下馬場	頸城	後期後葉～古墳前期	II	約40m	本掘		北陸系
24	吹上	上越市大字稲荷	頸城	中期中葉～後葉	I C	0m	本掘		北陸系・信濃系
25	釜蓋	上越市大字	頸城	後期末葉	I C	0m	確認		北陸系
26	斐太遺跡群	妙高市(旧新井市)大字宮内ほか	頸城	後期後葉～古墳前期	I A	約50m	本掘		北陸系
27	後生山	糸魚川市	頸城	後期前葉～後葉	II	約40m	本掘		北陸系
28	平田	佐渡市(旧新徳村)	佐渡	中期中葉～後葉	I C	0m	本掘		北陸系
29	蔵王	佐渡市(旧新徳村)	佐渡	後期?	I C	0m	本掘		北陸系

第26表 地域毎・時期別の環濠集落・高地性集落

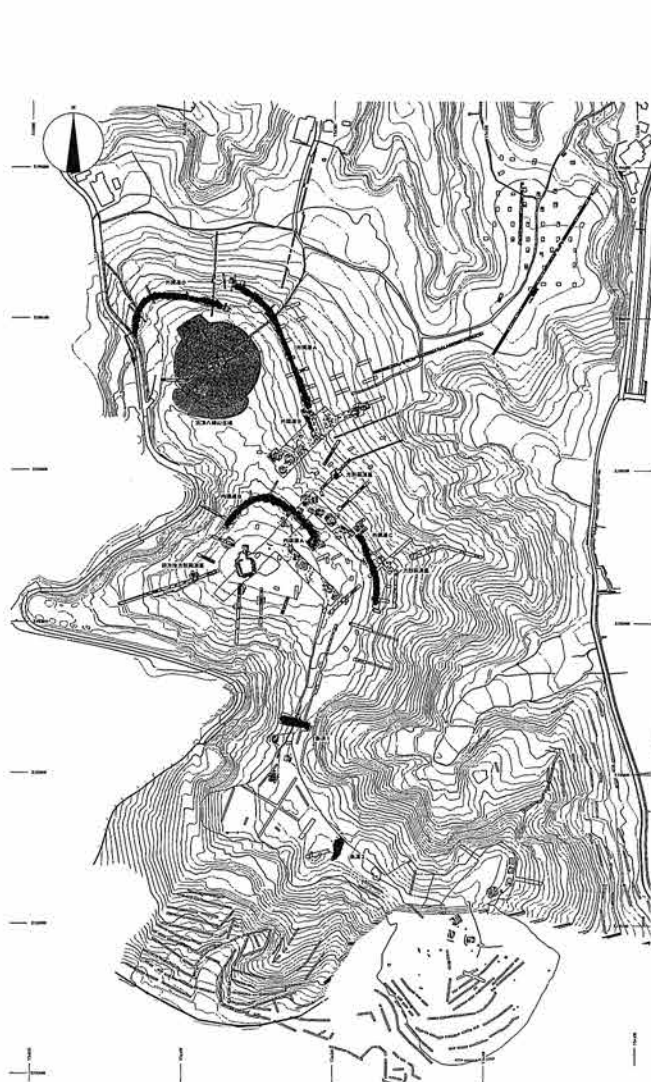
地域	中 期					後 期				
	環濠集落			合計		環濠集落			合計	
	高 地	低丘陵	平 地			高 地	低丘陵	平 地		
阿 賀 北				0		1			1	2
信濃川右岸				0		4	3		5	12
信濃川左岸				0					6	6
柏崎平野				0			1		1	1
魚 沼				0					0	0
頸 城			1	1		2		1	2	5
佐 渡			1	1				1	1	1
合 計	0	0	2	0	2	7	4	1	14	27



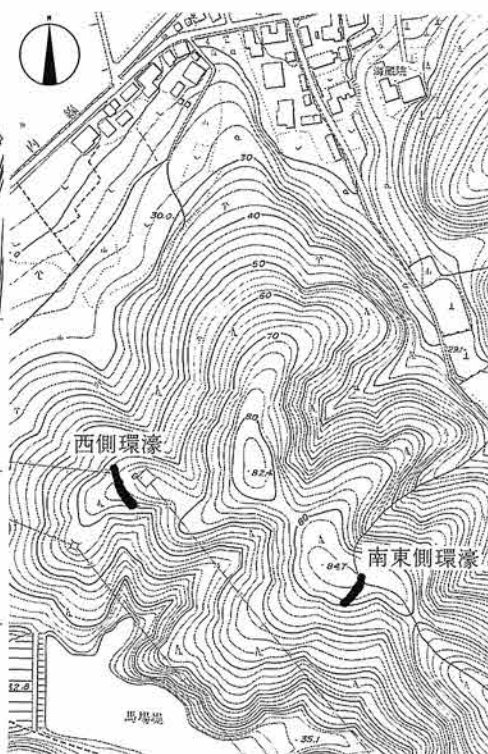
山元遺跡（高地性環濠集落）



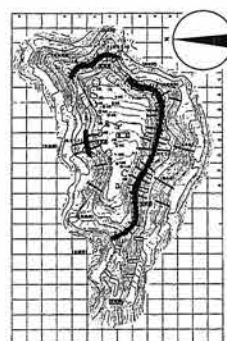
大平城遺跡（高地性環濠集落）



古津八幡山遺跡（高地性環濠集落）



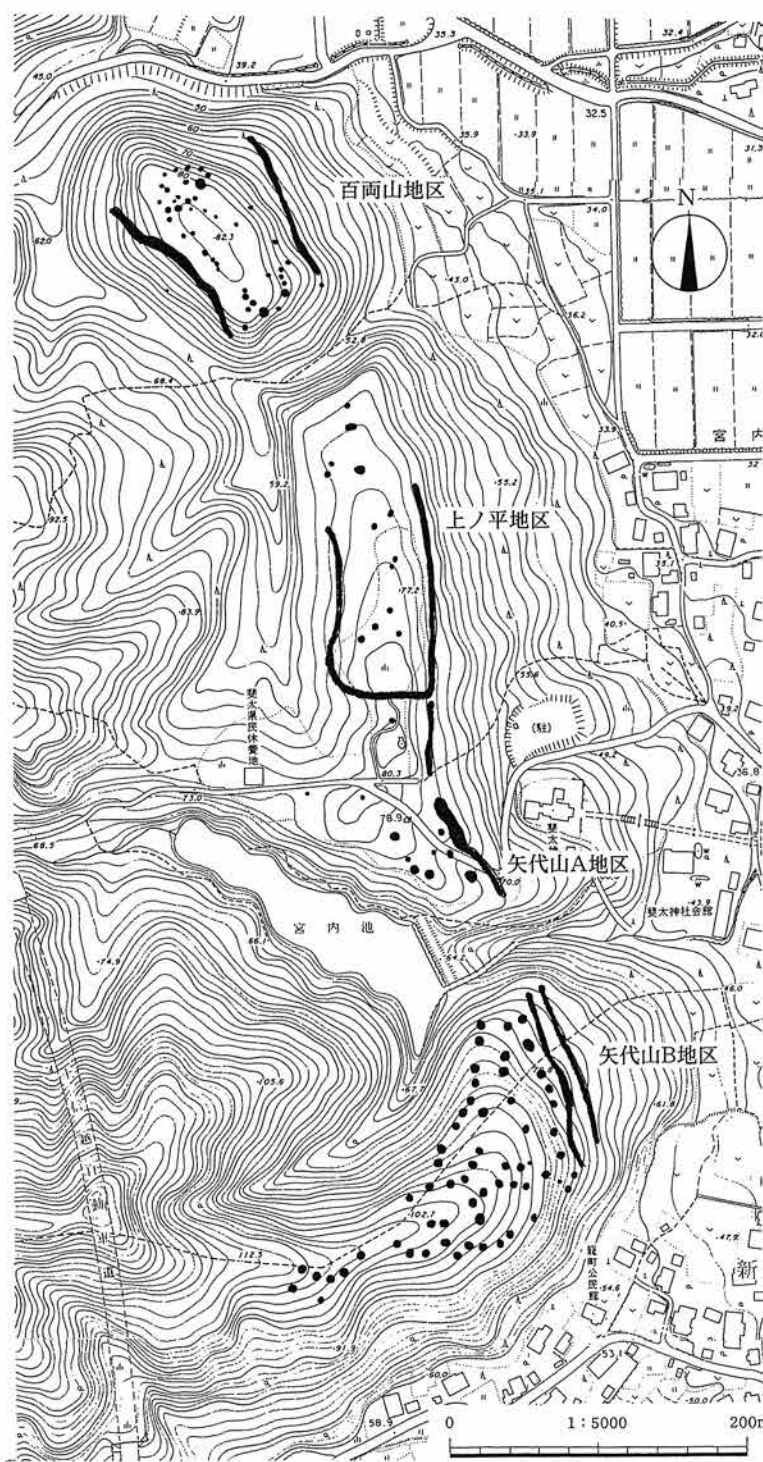
経塚山遺跡（高地性環濠集落）



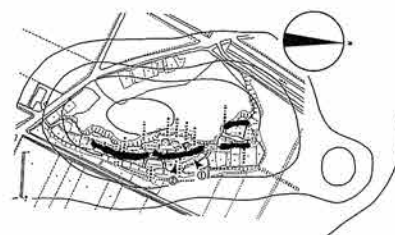
裏山遺跡（高地性環濠集落）

環濠

第29図 県内の環濠集落（1）（S=1:5,000）



斐太遺跡群（高地性環濠集落）



横山遺跡（独立低丘陵上の環濠集落）



西谷遺跡（独立低丘陵上の環濠集落）



釜蓋遺跡（低地の環濠集落）

—— 環濠

第30図 県内の環濠集落（2）（S=1:5,000）

上越市下馬場遺跡〔尾崎2006〕などわずか数例であり、五泉市大倉山遺跡〔川上1994〕など環濠が存在する可能性を含むものを数多く含んでいる。高地性環濠集落の数量は更に増加する可能性がある。

（２）環濠集落について

集落の内部を濠で囲った集落の名称であるが、県内では山元遺跡を含めて14例確認されている。立地は、前述のとおり高地が7遺跡、比高8～20mほどの独立低丘陵が4遺跡、周辺との比高が確認できない低地が4遺跡である。環濠の掘削時期についての詳細は明確にできないが、廃絶時期から中期に掘削されていると考えるものは2遺跡（頸城・吹上遺跡、佐渡・平田遺跡）なのに対し、後期は12遺跡と数量が増加している。地域別では、信濃川右岸が7例と最も多く、頸城が3例、佐渡で2例、阿賀北・柏崎平野で各1例が確認されている。

（３）高地性集落・環濠集落の分布と盛行時期・廃絶時期

a) 分布と土器の地域相

県内における弥生時代後期後半を中心とした土器様相を第28図に示した。地域毎では検出された資料に差異があるため、一部で保留部分を残すが、現状における傾向は指摘できる。従来は阿賀野川を挟んで北側で東北系、南側で北陸系と考えられてきたが、状況はより複雑である。東北系は阿賀野川以北を中心に、魚沼地域の魚野川流域まで分布しており〔安立2005〕、一部信濃川右岸の南方にも及ぶ。一方で北陸北東部系土器は、阿賀野川以南の海岸平野部を中心に分布する。信濃系（箱清水式）は魚沼地域の信濃川上流域から頸城の山間部にかけて主体となっている。今回の地域区分では、一地域で比較的単一の土器様式が確認できるのは、阿賀北・柏崎平野・佐渡に加え、信濃川左岸でその可能性が高いほかは、複数の土器様式が確認できる。信濃川右岸でも阿賀野川流域にあたる古津八幡山遺跡では、細別時期での変遷は予想されるが、東北系と北陸北東部系がほぼ同数認められるばかりか、器形が東北系で調整が北陸的とされる「八幡山式」が存在している〔渡邊2001〕。

高地性集落・環濠集落との分布との関連については、北陸北東部系土器と東北系土器の接点となる信濃川右岸で確認例が多く、単一の土器様相の地域では少ない傾向にある点を指摘したい。

b) 盛行時期と廃絶時期

1) 中期

低地の環濠集落が2例確認されている。頸城・吹上遺跡、佐渡・平田遺跡で、環濠の掘削時期や埋没時期は明確でないが、共に中期中葉～後葉を主体とした集落で、いわゆる小松式系統の北陸系土器分布圏内の遺跡である点、玉作り生産が活発に行われた遺跡で、後期まで存続しない等の共通点がある。

2) 後期

高地性集落、環濠集落の数量が飛躍的に増加している。以下、発掘調査が行われ、廃絶時期等がある程度、把握できる遺跡の状況を概観する。

高地性環濠集落：最も早く集落が築造されたのは古津八幡山遺跡〔渡邊ほか2001・2004〕で、1期後半頃である。山元遺跡や二ツ山山頂遺跡も当該期と考えられ、北部で成立が早い点が注目される。第1次の成立時期と考えたい。2期に入ると大平城遺跡〔関・戸根1974〕・経塚山遺跡〔金子1999〕・裏山遺跡〔小池ほか2000〕・斐太遺跡群〔佐藤2005・2006など〕などが成立している。第2次成立時期であり、最大の画期と考える。現状ではこの時期以降、新たに高地性環濠集落の築造例はない。

1～2期に成立した高地性環濠集落のうち、比較的規模が小さな大平城遺跡・経塚山遺跡・裏山遺跡・山元遺跡は短期間に集落が廃絶されており、3期までは継続しない。2期は第2次成立時期でもあり、第

1次廃絶時期にもあたる。これに対し規模が大きな古津八幡山遺跡や、斐太遺跡群は3期にも継続する。斐太遺跡群は谷を隔てた4地区で環濠が造営されており、このうち矢代山B地区の外環濠は2期、内環濠は3期で埋没しており、段階的に環濠が廃絶されている。これ以外の地区については明確でないが、上ノ平地区24号住居は5期である。環濠埋没後も集落が維持された可能性もあるが、現状では明確でない。情報が少ないものの、中小規模の高地性環濠集落の廃絶時期とは一致しない点を強調したい。これは古津八幡山遺跡も同様であり、3期には継続している。環濠出土土器の中には4期のものもあることから、当該期を環濠の廃絶時期と考えたい。

独立低丘陵環濠集落：西谷遺跡〔滝沢ほか1992〕は、高地性環濠集落の盛行時期と同様に2期に成立する。横山遺跡は中期後半の資料も多いが、弥生後期の土器は4期頃（一部、3期か）を主体としており、高地性環濠集落の成立時期とは異なる可能性が高い。また、両遺跡の環濠埋没時期は、いずれも5期である点も高地性環濠集落とは異なる。

低地環濠集落：釜蓋遺跡〔笹沢ほか2008〕1例のみである。後期前葉の土器も散見するが、主体は4期以降である。2条検出された環濠の廃絶時期は、1号環濠が4期で、2号環濠は5期である。成立時期は独立低丘陵上の横山遺跡に近く、廃絶時期も、高地性環濠集落の主体的な時期とは異なる。

環濠集落の廃絶時期：限られた情報での検討であるが、環濠集落は立地毎で成立・廃絶時期で差異がある。高地性環濠集落の成立時期は1・2期が主体であるのに対し、独立低丘陵の環濠集落は2期と4期、低地の環濠集落は4期で、序々に低地化の傾向が見て取れる。一方、環濠の廃絶時期も中小規模の高地性環濠集落（2期）⇒大規模環濠集落（3～4期）・低地の環濠集落（4・5期）⇒低丘陵の環濠集落（5期）と、低丘陵の環濠集落において遅くまで環濠が廃絶されない点を指摘したい。

高地性非環濠集落：情報量が少ないため顕著な傾向は見いだし難いが、成立時期は2期が最も多い。比較的広範囲に発掘調査が行われた遺跡は存続期間が長く、下馬場遺跡〔尾崎2006〕・大沢遺跡〔甘粕ほか1982など〕・滝ノ前遺跡〔関1972、石丸ほか2003など〕は5期まで続く。小規模なものも、越後では2期（ないしは1期）に成立して、短期間で終了する遺跡が多く〔滝沢1995・1999〕、3期が大きな断絶時期である。

これは中小規模の高地性環濠集落と一致した動きと評価する¹⁾。

（3）県内の動向からみた山元遺跡

土器編年に大きな課題を残すが、山元遺跡の環濠廃絶時期は、県内の小規模な高地性環濠集落と一致すると考える。成立時期は同じく県北部の古津八幡山遺跡とほぼ一致する可能性が高く、途切れる環濠のデザインを含め、一致する点が少なくない点を指摘したい。

第27表 新潟県における後期環濠集落の存続期間

遺跡名	立地	規模	中期	1	2	3	4	5
山元	高地	小規模	……	……	■	■	■	■
古津八幡山	高地	大規模	■	■	■	■	■	■
大平城	高地	小規模	■	……	■	■	■	■
経塚山	高地	小規模	■	■	■	■	■	■
裏山	高地	小規模	■	■	■	■	■	■
斐太遺跡群	百両山	高地	■	■	……	……	……	……
	上ノ平・矢代山A	高地	■	■	……	?	?	……
	矢代山B	高地	■	■	……	■	■	■
	横山	低丘陵	小規模	■	■	■	■	■
	西谷	低丘陵	小規模	■	■	■	■	■
	釜蓋	低地	大規模	……	……	■	■	■

…… 土器・若干の遺構有り。

■ 主体時期

¹⁾ 一方、地域的な特徴として、佐渡では遺構が明確でないものの、越後で遺跡数が増加する2期の遺跡は極めて少なく、越後で集落の断絶時期にあたる3期から遺跡数が多くなる。